

公共施設調査・整備特別委員会

令和6年3月4日

1 報告事項

(1) 子どもの遊び場の新設について

【資料】

(2) 和泉小学校・いずみこども園等の施設整備について

【資料】

2 その他

3 閉会中の特定事件継続調査事項について

子どもの遊び場の新設について

1 目 的

「千代田区子どもの遊び場に関する基本条例」に基づき、子どもが自由にボール遊び等ができる子どもの遊び場を確保する。

2 実施場所

- (1) 施設名 東京中華学校校庭
- (2) 所在地 五番町 14 番地
- (3) 面積 校庭部分 3,729 m²

3 実施日時

毎週日曜日 午後 2 時から午後 4 時（年末年始を除く）

※既存の子どもの遊び場同様に天候等により中止となる場合あり。

4 スケジュール

- 3 月上旬 利用者等周知（広報 3 月 5 日号、HP 等）
- 3 月 24 日（日） オープン

5 実施方法

- (1) プレーリーダーの配置
遊び場の安全管理や、子どもたちの遊び相手等をするプレーリーダー（5 名）を配置する。出入口扉の開閉はプレーリーダーが行う。
- (2) 遊具の貸出し
プレーリーダーの管理で遊具を貸し出す（遊具は区が用意する）。貸出しの際は遊具の使い方や球技のルール等を必要に応じて説明する。

6 そ の 他

- (1) 校庭の使用範囲について
校庭に設置されている学校備品類や校舎ガラスの破損等の可能性を極力抑えるため、本遊び場においては校庭の使用範囲を適宜限定する。
- (2) トイレの利用
校舎には立ち入ることができないため、隣接するビルのトイレを利用する。案内は必要に応じてプレーリーダーが行う。
- (3) 位置図及び既存の子どもの遊び場事業実施個所一覧
裏面参照

【位置図】



【既存の子どもの遊び場事業実施個所一覧】

場所	実施時間
外濠公園総合グラウンド内芝生広場 (五番町先)	毎週水曜 14時～16時
和泉公園 (神田和泉町1)	毎週木曜 15時～17時
	毎週土曜 14時～16時
東郷元帥記念公園下段部分 (三番町18)	毎週日曜 14時～16時
小川広場フットサルコート (神田小川町3-6)	毎週日曜 14時30分～16時30分
旧今川中学校 (鍛冶町2-4-2)	毎週日曜 14時～16時
芳林公園 (外神田3-5-18)	毎週日曜 10時～12時
旧永田町小学校 (永田町2-19-1)	毎週日曜 10時～12時
ふじみこどもひろば (富士見2-14-3)	土曜・日曜 祝日・休日 9時～17時

和泉小学校・いずみこども園等の施設整備について

庁内や東京都との協議により和泉公園との一体的な整備について、一定の見通しが立ったことから、小学校・こども園の関係者による校・園関係者懇談会を開催し、基本構想素案（たたき台）等を示し意見を伺った。

1 校・園関係者懇談会

(1) 構成

和泉小学校・いずみこども園教職員等（校長・副校長、元校長、園長・副園長）
和泉小学校・いずみこども園PTA（会長・副会長）
施設所在地の町会（神田和泉町町会長）
和泉橋出張所長

(2) 概要

- ①開催日時 令和 6 年 1 月 26 日（金）18：00
- ②会場 ちよだパークサイドプラザ
- ③議題 施設整備の経緯経過、新施設整備に向けた考え方
- ④当日資料 基本構想素案（たたき台）
別添 1（上記懇談会にて聴取した意見を追記した修正版）
アンケート調査結果について（児童・保護者、教職員）
別添 2 のとおり

(3) 主な意見（抜粋）

- ・公園との一体的利用においては、学校・園のセキュリティ対策を進めてほしい。
- ・ICTや不登校児等への対策など、多様な教育に対応できるようにしてほしい。
- ・災害発生時の安全性、避難所としての機能を担保してほしい。
- ・子どもたちが運動できるスペースを確保してほしい。
- ・近隣と協力して整備を進めてほしい。

2 今後の予定

令和 5 年度 校・園関係者懇談会にて施設整備の基本構想策定を進める。
令和 6 年度 基本計画（施設整備と公園整備）の策定。
都市計画変更手続き。

和泉小学校・いずみこども園等の施設整備について

【基本構想素案（たたき台）】

和泉小学校・いずみこども園等を有するちよだパークサイドプラザは、竣工から約36年経過し、建物老朽化による故障頻発や、学校・こども園部分と地域利用部分の動線の混在、学区域内での就学前人口が増加傾向にあり教室数が不足する見込等、様々な課題を抱えていることから、建物整備の検討を進める。

1 沿革

- 旧佐久間小学校敷地を利用し、隣接する和泉公園敷地を活用しながら小学校と区民施設とを複合化した施設（ちよだパークサイドプラザ）として昭和62年（1987年）7月に竣工、9月に開設。
- 施設内の各機能を変更しながら改修を重ねてきた経緯がある。
平成5年4月 旧佐久間小学校と旧今川小学校を統合し再配置した「和泉小学校」
平成14年4月 佐久間幼稚園といずみ保育園からなる幼保一元化施設として「いずみこども園」を新たに開設。
併せて、児童館的機能事業等を有す「いずみこどもプラザ」、地域利用施設である「ちよだパークサイドプラザ」を有する。

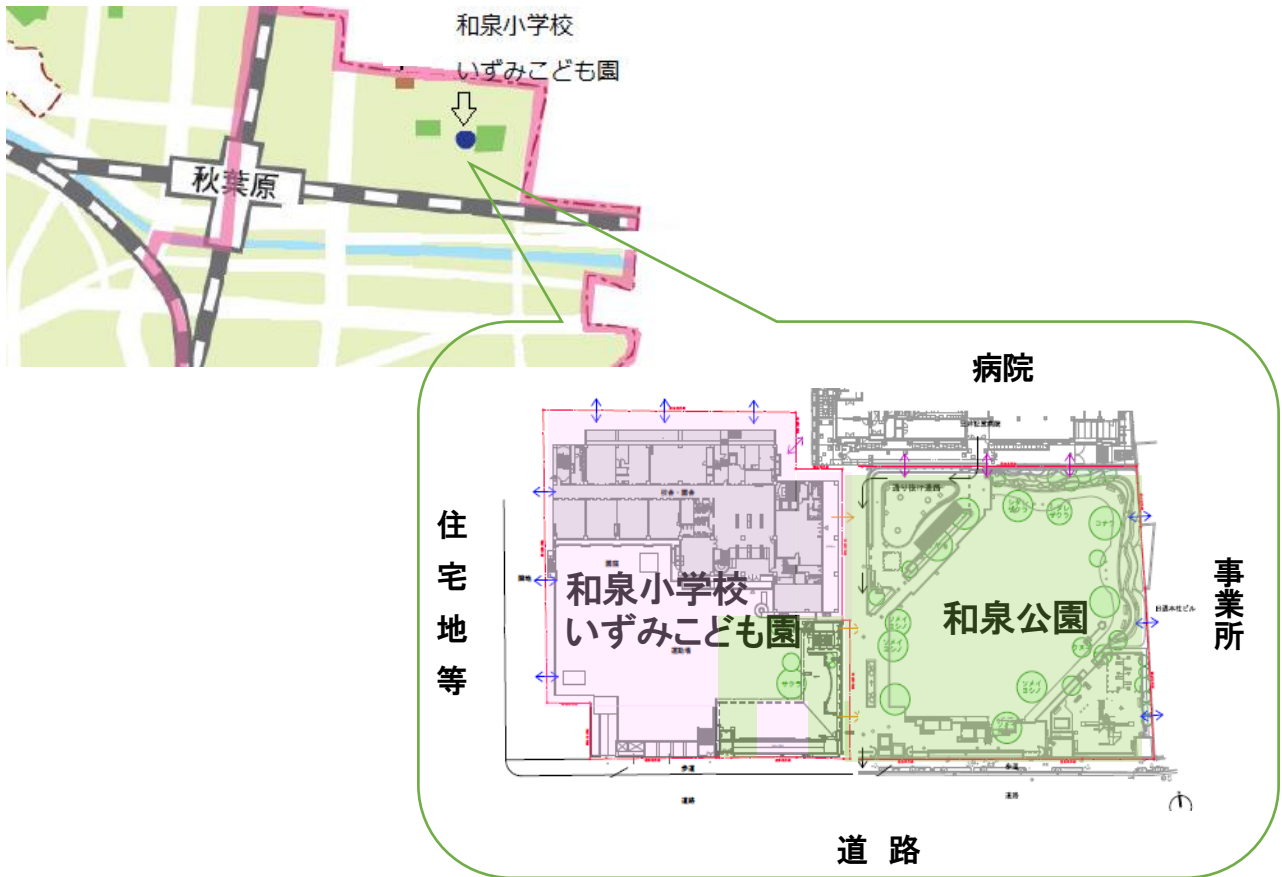
2 敷地、現施設の構成、周辺地域の位置図、地区要件

敷地面積	3,963.06 m ²
延床面積（全体）	11,454.9 m ²
構造・階数	鉄骨鉄筋コンクリート構造 地上8階・地下1階

建物 構成	8階（屋上）	機械設備等
	5～7階、受付1階	ちよだパークサイドプラザ
	5・6階	いずみこどもプラザ
	1～5階	和泉小学校
	1・2階	いずみこども園
	地下1階	プール、給食調理室、防災備蓄倉庫等



○周辺地域の位置図



○地区要件

	和泉小学校・いずみこども園等	和泉公園
所在地	神田和泉町1番地	神田和泉町1番地300
敷地面積等	3963.06㎡(公有財産表による) うち校庭面積 小学校:約1,207㎡ こども園約218㎡ 校庭拡幅整備(H21年3月)	4607.71㎡(公有財産表による) 種別:都市計画公園街区公園 昭和54年3月30日開設 平成20年校庭拡幅工事に伴い改修
用途地域	商業地域	
容積率	500%(南側一部600%)	
建ぺい率	80%	
防火地域	防火地域	
前面道路	南側:16m	
日影規制	なし	
高度地区	第四種中高層階住居専用地区(南側一部)	
その他	千代田区駐車場整備地区 荒川浸水想定区域(想定浸水深0.5m以上~3.0m未満)	

3 現施設の課題と解決に向けた考え方

(1) 現施設の課題

①建物の老朽化

設備の経年劣化による故障が頻発し、建物躯体の老朽化も進行している。

②管理運営面での課題

学校・こども園部分と地域利用部分の動線混在。

バリアフリーへの対応が不十分である。

③児童数への対応

学区内での就学前人口が増加傾向にあり、教室数が不足する見込。

(2) 課題解決に向けた考え方

地域の就学前人口の増加に伴い、子どもを対象に特化した3つの機能（小学校・こども園・こどもプラザ）を大幅に拡充した施設として整備していく必要がある。

4 施設の基本的な考え方

(1) 新たな教育需要にも対応可能なゆとりある教育環境を整える。

① 児童数の増減や多様な学習形態に対応できるゆとりある教育環境

② ICT教育環境に適した設備

③ 様々な学年の児童や園児など異年齢同士で交流し、共に成長できる環境

④ 小学校、こども園、児童館的事業の各機能の独立性と連携の両面が確保できる環境

⑤ メンテナンス、改修時にも柔軟に対応可能な施設

(2) 安全・安心を確保しながら、健康で環境に配慮した施設づくり

① 教育施設部分と地域利用部分を分けて、安全性を重視した施設運営

② 限られた敷地を最大限活用し、思い切り身体を動かし、健やかでたくましい心と体の育成

③ 都心のなかでも、自然や四季を感じられる建物

④ 省エネルギー化（区実行計画：35%削減）を推進し、環境教育の教材へ活用

(3) 地域に開かれ、ともに育む、防災拠点にもなる施設づくり

① お祭りや地域活動など学校を取り巻く様々な人々が活動する、地域の子育て、コミュニティ活動、生涯学習の場

② 災害発生時には地域と連携し避難場所、防災拠点としての役割

③ 旧佐久間小学校及び旧今川小学校、和泉小学校の歴史・伝統・校風の継承

(4) 公園と一体的に整備することにより、学校と公園が連携した施設づくり

① 隣接する和泉公園との連続性を確保し、限られた学校敷地の中でも子どもたちの教育活動を充実させ、遊び場としても身近に自然を感じられる公園活用

② 都心地でのより広い公園確保のため、校庭と共用することで地域のにぎわいの場・自然の景観形成に貢献

③ 地域並びに隣接する病院や民間企業との協働の場として、様々な地域活動の場や災害時の拠点としての役割

④ セキュリティを確保し、校園と公園の利用者が安心して利用できる制度設計

5 小学校・こども園等で必要と考える諸室・面積（想定案）

（1）諸室

①小学校

普通教室は現状の12学級から最大24学級規模に拡大し、ICT教育環境を整えたゆとりある教室の整備

ア) 教室とまわりの環境

⇒普通教室は最大24学級とし、多様な学習形態に対応可能な仕様

⇒学級数の増減に対し、少人数教室や多目的教室などに転用可能な教室

⇒ICT機器を活用して、自由自在に使える空間が作りやすい教室 など

イ) 様々な学びの環境

⇒図書館をタブレット端末を使用したメディアセンターとし、静かに本を読む場所やリラックスできる空間

⇒音楽室を2室、楽器庫を設置、理科室は自然を学び、植物を育てやすい環境、図工室及び家庭科室は展示スペースなどゆとりある広さを確保 など

ウ) 体を動かす場

⇒児童数に応じた広い校庭の確保

⇒地域活動や避難所としても利用可能な体育館アリーナ など

エ) 執務環境

⇒職員室等管理諸室は教職員が働きやすく、連携が取りやすい空間を確保

⇒相談や打ち合わせ、オンライン業務に対応可能なスペースの確保 など

オ) 地域の避難所

⇒地域の避難所として適した環境と万が一の浸水に備えた防災備蓄倉庫の確保

⇒災害時に障がい者や高齢者等が利用しやすくプライバシーが確保された環境 など

②こども園

現状と同等の定員を基本に、0歳児から5歳児までの教室が編成対応可能とし、保育施設としての環境・機能改善と幼児施設としての最新の教育環境の整備

ア) 保育室

⇒幼児部は1学年につき2室の保育室（部屋を分割することも可）

⇒乳児部は生活と遊びの場の使い分け、個性や成長段階に応じた対応が可能な環境

⇒教育活動、保育・教育活動の園内共有や保護者との連携のためのICT環境

イ) 園庭・体を動かす場

⇒園児が安全かつ自由に動き回れる専用園庭の確保

⇒雨天時でも体を動かせる場や園児用のプール設備の設置

ウ) その他

⇒小学校とこども園の一体感が感じられる施設

⇒地域の子育て支援や保護者の相談に応じられる場の設置

⇒病後児保育室の新設 など

③こどもプラザ

地域の子育て世代の転入増による子育て支援事業や学童保育等の需要増が見込まれるため、子育て支援施策の更なる充実を目指した施設機能の拡充

ア) 学童クラブ

⇒最大3室の学童クラブ活動が対応可能な場の確保

⇒学童保育室を使用していない時間帯は、他の児童館事業に活用できるような造り

イ) 児童館的機能

⇒図工室や図書室など、児童館として必要な専用諸室の確保

⇒年代に応じたすみ分けに配慮し、乳幼児から中高生まで多様な活動に適した環境

⇒子どもたちが思い切り体を動かせる専用遊戯室（体育室）や様々なスポーツ活動等に対応可能な設備の設置

⇒地域の子育て支援事業の核となるような、保護者同士が交流できる場

⇒こどもプラザ各事業の連携、利用者の利便性・安全性向上のためフロアにまとめた施設配置

(2) 主たる用途である小学校・こども園等で必要と考える諸室・面積（想定案）

項目	想定面積（㎡）	既存面積（㎡）	備考
小学校	10,840.0	7,090.7	
こども園	2,368.0	1,941.8	
こどもプラザ	1,792.0	685.6	
パークサイドプラザ		1,736.8	多目的ホール含む
施設合計	15,000.0	11,454.9	

詳細は別添1-2のとおり。

※地域利用を行っているパークサイドプラザの機能は、セキュリティを確保しながら、小学校やこどもプラザで使用しない時間帯の教室を一般開放するなどし、地域のコミュニティ活動及び生涯学習拠点としての役割を継承することも考えられる。

6 施設整備（以下は項目例）

（1）整備方針

和泉公園と学校敷地とを換地し、和泉公園と一体的に整備する。

（2）配置、新施設の構成、フロア構成、公園閉鎖時の代替措置

① 配置

現在の公園敷地と施設敷地を東西で入れ替える。また、施設敷地と公園敷地のそれぞれ一部を、相互に一体的利用することを想定。



② 新施設の構成（イメージ）

（作成中）

③ フロア構成（案）

フロア	構成	計画面積（㎡）
7F	屋内運動場、遊戯室等	2000
6F	児童館	2000
5F	小学校	2000
4F	小学校	2000
3F	小学校	2000
2F	小学校	2000
1F	こども園	2000
B1F	機械室、プール、給食調理室等	3500

④ 公園閉鎖時の代替措置（案）

- ・いずみ児童遊園に遊具を移設し、児童・園児の遊び場を確保する。
- ・学校等が使用していない時間に校庭を開放する。
- ・佐久間公園にじゃぶじゃぶ池等の一部機能を移設する。

（3）検討体制

和泉小学校・いずみこども園等施設整備 校・園関係者懇談会

① 目的

和泉小学校及びいずみこども園等施設の整備を進めていくにあたり、学校・園に従事する職員等をはじめ、ここに通う子どもたちに最も身近な関係者等から意見等を聴取し、基本構想・基本計画の策定において、学校・園の現場及び施設所在地の実情を加味したものとしていくための一助とする。

② 構成

- ・和泉小学校及びいずみこども園 教職員、関係者
 - ・和泉小学校及びいずみこども園 P T A関係者
 - ・現ちよだパークサイドプラザ所在地の町会関係者（事務局）教育委員会事務局子ども部子ども施設課
- ※詳細は別添1-3のとおり。

③ 経緯

- 令和4年1月17日
 - ・ちよだパークサイドプラザの現況・課題
 - ・教職員アンケートの概要報告
- 令和6年1月26日
 - ・施設整備の経緯経過
 - ・新施設整備に向けた考え方

(4) 開設までのスケジュール (想定)

令和6年度	<ul style="list-style-type: none">・施設整備の基本構想、基本計画の策定・都市計画変更手続き・施設設計業者選定プロポーザル
令和7年度～令和8年度	<ul style="list-style-type: none">・施設の基本設計、実施設計
令和8年度～令和11年度	<ul style="list-style-type: none">・施設新築工事・施設竣工後に移転
令和11年度～	<ul style="list-style-type: none">・現施設解体工事・新公園整備工事

※一体的整備に関する会議は、適宜開催する。

(5) 事業費概算
(精査中)

主たる用途である小学校・こども園等で必要と考える諸室・面積（想定案）

■小学校

項目	計画施設			既存施設			
	室名	室数	1室あたりの面積 (㎡)	面積 (㎡)	室数	1室あたりの面積 (㎡)	面積 (㎡)
教室まわり	普通教室	24	72.0	1728.0	12	59.4	712.8
	特別支援教室	1	72.0	72.0	1	44.2	44.2
小計	そのほか多目的スペース等含む			3,033.6	863.1		
特別教室等	理科室	2	112.0	224.0	1	80.0	80.0
	音楽室	2	160.0	320.0	1	96.0	96.0
	図工室、家庭科室	各1	160.0	320.0	各1	90.4	180.8
	図書室（メディアセンター）	1	288.0	288.0	コンピューター室 1	80.0	80.0
	ランチルーム・会議室	2	64.0	128.0	ランチルーム 1	88.3	88.3
	和室、放送室、児童会室				-	-	-
小計	そのほか準備室、昇降口等含む			1,510.4	648.0		
管理諸室	校長室	1	64.0	64.0	1	61.4	61.4
	職員室	1	160.0	160.0	1	93.4	93.4
	保健室	1	64.0	64.0	1	54.4	54.4
	記念室、保管庫	1	64.0	64.0	1	133.8	133.8
	防災備蓄倉庫	2	64.0	128.0	1	58.2	58.2
	給食調理室	1	416.0	416.0	1	133.8	133.8
小計	そのほか事務室、主事室、相談室、配膳室、機械室等含む			1,536.0	703.0		
体育館・プール	屋内運動場（アリーナ部分）	1	704.0	704.0	1	583.7	583.7
	プール	1	704.0	704.0	1	583.7	583.7
小計	そのほかプール更衣室、器具庫、機械室等含む			2,176.0	1,800.0		
上記計				8,256.0	4,014.1		
廊下他				2,584.0	3,076.6		
小学校計				10,840.0	7,090.7		

■こども園

項目	計画			既存施設			
	室名	室数	1室あたりの面積 (㎡)	面積 (㎡)	室数	1室あたりの面積 (㎡)	面積 (㎡)
保育室等	保育室	6	96.0	576.0	6	64.0	384.0
	午睡室	3	64.0	192.0	3	57.6	172.8
	病後児保育室	1	32.0	32.0	-	-	-
	多目的室・遊戯室	各1	128.0	256.0	2	115.2	230.4
管理諸室	園長室・職員室	1	96.0	96.0	1	54.4	54.4
給食室	給食調理室	1	192.0	192.0	1	70.4	70.4
その他、園児用トイレ、玄関、職員更衣室等				1,024.0	1,030.2		
こども園計				2,368.0	1,941.8		

■こどもプラザ

項目	計画			既存施設			
	室名	室数	1室あたりの面積 (㎡)	面積 (㎡)	室数	1室あたりの面積 (㎡)	面積 (㎡)
学童保育	学童保育室	3	76.8	230.4	2	62.7	125.4
一時保育	保育室	1	76.8	76.8	1	38.4	38.4
児童館機能	図書室、図工室、多目的室等	4	76.8	307.2	学童保育室と兼用		
	遊戯室	1	448.0	448.0	パークサイドプラザ多目的ホール（408㎡）と兼用		
管理諸室	事務室	1	64.0	64.0	1	81.3	81.3
その他、子どもトイレ、職員更衣室等				665.6	440.5		
こどもプラザ計				1,792.0	685.6		

和泉小学校・いずみこども園等施設整備
校・園関係者懇談会 構成

団 体 ・ 役 職	
和泉小学校教職員及び関係者	校 長
	副 校 長
	元 校 長
いずみこども園教職員	園 長
	副 園 長
和 泉 小 学 校 P T A	会 長
	副 会 長
いずみこども園 P T A	会 長
	副 会 長
施 設 所 在 地 の 町 会	神田和泉町町会長
子ども施設課	課 長

オ ブ ザ ー バ ー	和泉橋出張所長
事務局（子ども施設課）	施設計画担当係長・主事

和泉小学校・いずみこども園等施設整備に関するアンケート調査結果について

和泉小学校・いずみこども園等施設整備を進めていく上で、小学校児童、こども園園児・小学校児童の保護者および施設職員の視点から関心の高い事項や課題等を把握し、今後の整備計画に向けた方針に反映させるためアンケート調査を実施した。

1 アンケート概要

(1) 児童

対 象：令和5年1月1日時点で在学している児童
(1・2年生139名、3～6年生：216名)
時 期：令和5年1月16日(月)～1月27日(金)

(2) 保護者

対 象：令和5年2月1日時点で在園・在学している園児・児童の保護者
(配布総数 こども園保護者：134名、小学校保護者：356名)
時 期：令和5年2月1日(水)～2月15日(水)

(3) 施設職員

対 象：和泉小学校：令和3年10月1日時点で在職している全教職員
いずみこども園：令和3年11月1日時点で在職している全教職員
こどもプラザ：令和4年3月に在職している全教職員
パークサイドプラザ：令和4年3月に在職している全職員
時 期：令和3年11月～令和4年3月

2 アンケートの結果概要

(1) 児童

全体を通して、より広い施設規模、自由に遊べる・すごせる場所に関して多くの意見が挙がった。以下、関心の高かった項目や主な回答を挙げる。集計概要は別添2-2のとおり。

- ・使いやすい場所「体育館」、「図書スペース」
- ・使いにくい場所「トイレ」
- ・新しくする施設環境「他のクラスの友達も、違う学年の友達もみなで集まれる場所」「こども園といっしょに遊べる場所」「放課後、自由にすごせる場所」「たくさん体を動かせる場所」「ひとりで落ち着いていられる場所」「和泉地域のイベントができる場所」

(2) 保護者

全体を通して、安全・安心に関すること、より広い施設規模、建設中の教育環境などへの配慮、子ども達や教職員のことを考えた施設づくりに関して多くの意見が挙がった。

以下、関心の高かった項目や主な回答を挙げる。集計概要は別添2-3のとおり。

- ・「教室・保育室等の広さや環境」
- ・「トイレ等の水まわりの衛生面」
- ・「新たな学び・多様な教育活動に対応可能な教育環境」
- ・「思い切り身体を動かし活動できる学校・園」

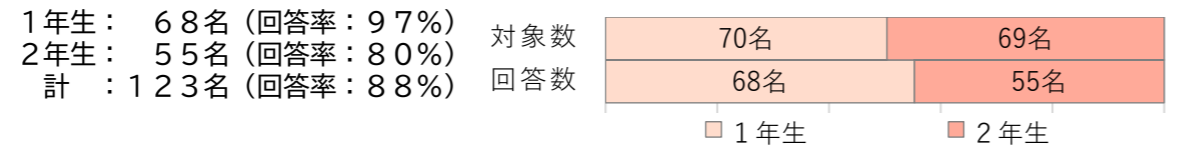
(3) 施設職員

全体を通して、より広い施設規模、安全・安心に関すること、子ども達や教職員のことを考えた施設づくりに関して多くの意見が挙がった。

以下、関心の高かった項目や主な回答を挙げる。集計概要は別添2-4のとおり。

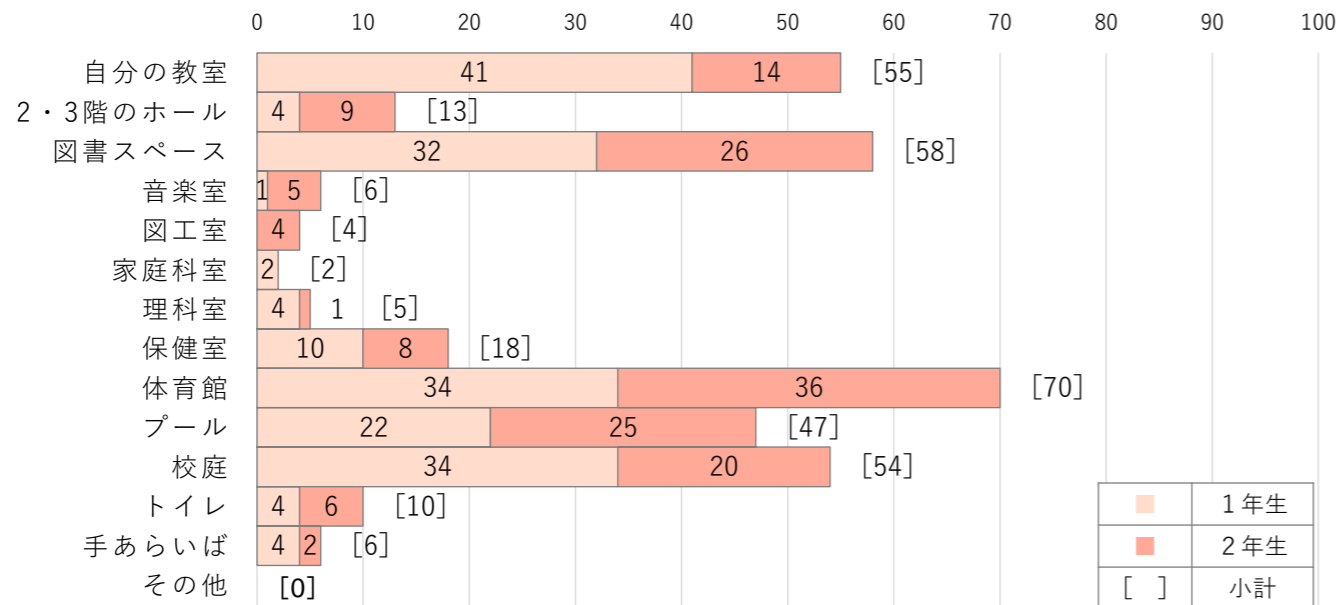
- ・様々な居場所や交流の場を生み出す学校、思い切り身体を動かし活動できる学校
- ・自然や木とふれあえるこども園、安全安心を確保しつつ自由に動き回れる環境
- ・学童保育・一時保育・児童館機能のより広い活動スペース、施設間(小学校、こども園ほか)での連携
- ・区民図書室・貸出室・プール等の現施設及び設備老朽化、利用者が小学校・こども園へ立ち入らない利用者動線

1 回答者の属性



2 現在の施設環境

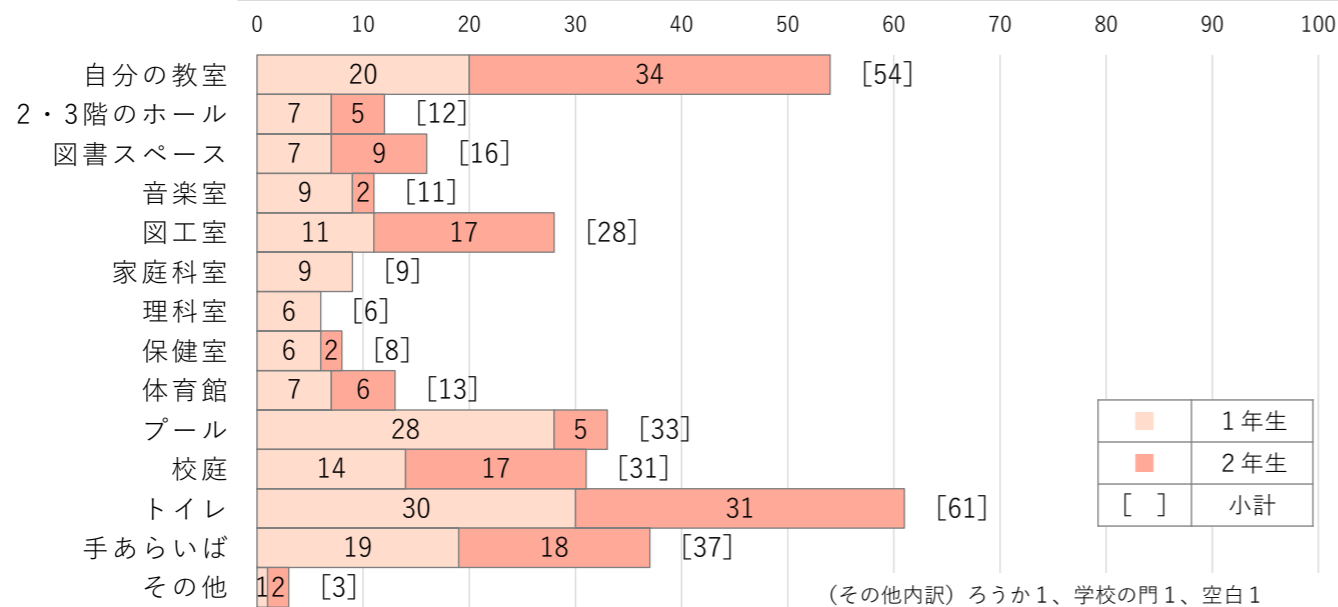
Q：現在の和泉小学校について、使いやすい場所を3つまで選択。



*低学年全体では、体育館、図書スペース、自分の教室の順に多く、179で全体の半数を占める。
*自分の教室は、設問3で2番目に多く児童により評価が分かれています。1年生が多く、2年生が少ない。
*1年生は自分の教室、体育館、校庭の順、2年生は体育館、図書スペース、プール・校庭の順、体育館は両学年とも多い。
*総回答数348、3つ回答110名、2つ回答5名、1つ回答8名。（別紙参照）

3 現在の施設環境

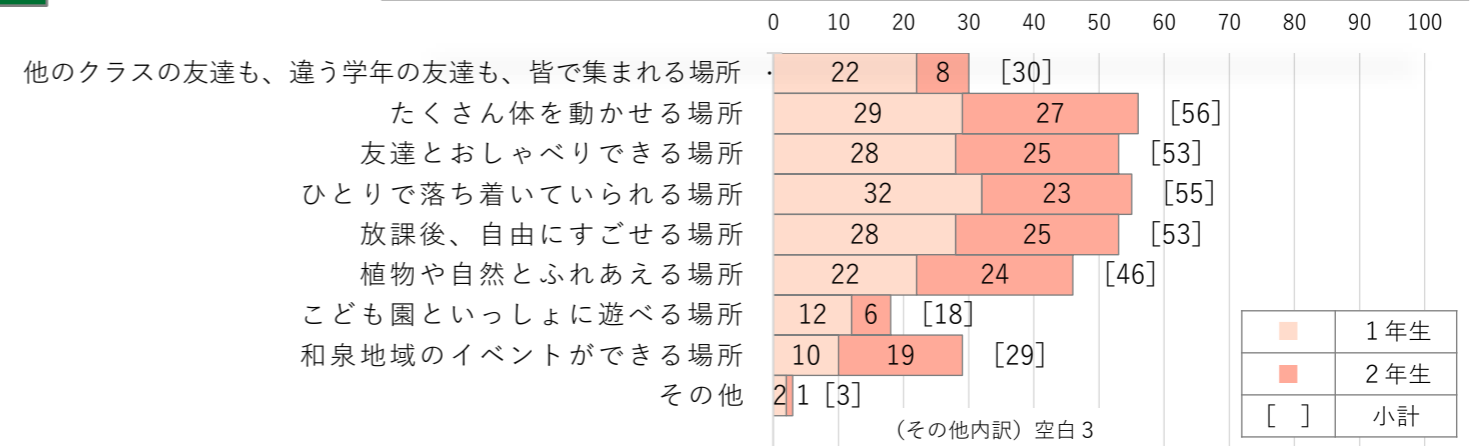
Q：現在の和泉小学校について、使いにくい・もっとよくしてほしい場所を3つまで選択。



*低学年全体では、トイレ、自分の教室、手洗いばの順に多い。
*自分の教室は、設問2で3番目に多く児童により評価が分かれています。1年生が少なく、2年生が多い。
*1年生はトイレ、プール、自分の教室の順、2年生は自分の教室、トイレ、手洗いばの順で、トイレは両学年とも多い。
*総回答数322、3つ回答94名、2つ回答11名、1つ回答18名。（別紙参照）

4 新しくする施設環境

Q：校舎を新しくした場合、「あったらいいな」と思う場所を3つまで選択。

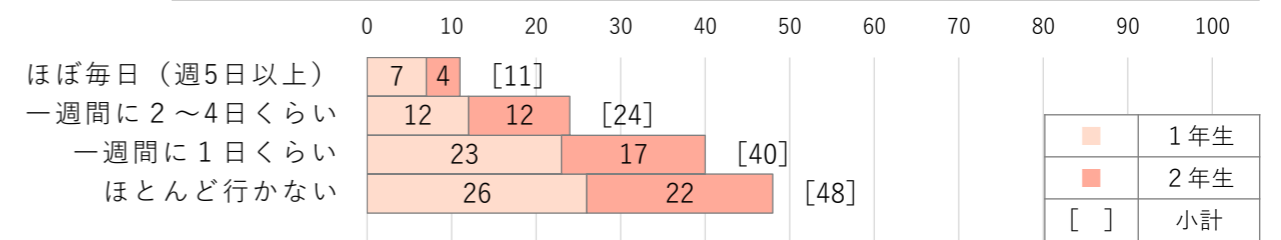


*低学年全体の回答は分散し5つの項目がほぼ同数で多い。
*1年生は他のクラスの友達も、違う学年の友達もみなで集まれる場所、ひとりで落ち着いていられる場所、こども園といっしょに遊べる場所の割合が多い。
*2年生和泉地域のイベントができる場所の割合が多い。
*総回答数343、3つ回答106名、2つ回答8名、1つ回答9名。（別紙参照）

5 隣接する和泉公園

5-1（利用頻度）

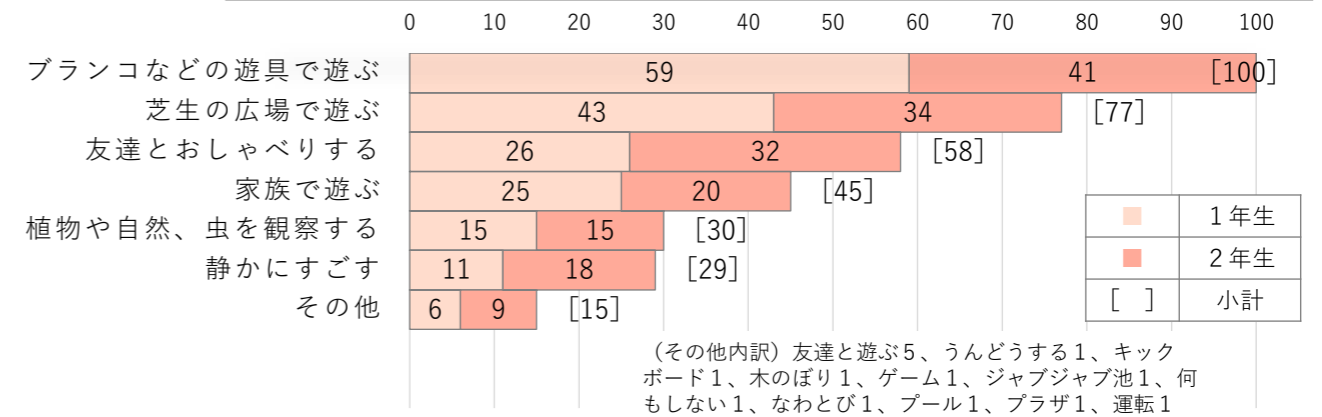
Q：1週間で和泉公園に遊びに行く頻度を、学校が休みの日もいれて選択。



*総回答数123のうち「ほとんど行かない」が48名で最大、約4割を占める。
*行く頻度は1年生の方が2年生にくらべ高い。

5-2（利用目的）

Q：和泉公園で何をしているかを選択肢の中から該当するもの全てを選択。



*低学年全体の傾向は同じである。
*1年生はブランコなどの遊具で遊ぶ、芝生の広場で遊ぶ、家族で遊ぶの割合が多く、2年生は友達とおしゃべりする、静かに過ごす、その他の割合が多い。
*総回答数は354、6つ回答は9名、5つ回答14名、4つ回答14名、3つ回答34名、2つ回答20名、1つ回答32名で、多くの児童が複数の目的を持っている。（別紙参照）

アンケート概要

対象：令和5年1月1日時点で在学している児童（1・2年生139名）
時期：令和5年1月16日（月）～1月27日（金）
形式：WEB方式 学校配布のタブレットを使用し児童本人が回答

アンケート委託先

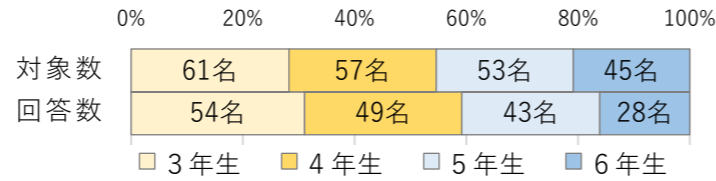
教育環境研究所

和泉小学校・いずみこども園等の施設整備に関するアンケート結果【集計概要2】

児童3・4・5・6年生

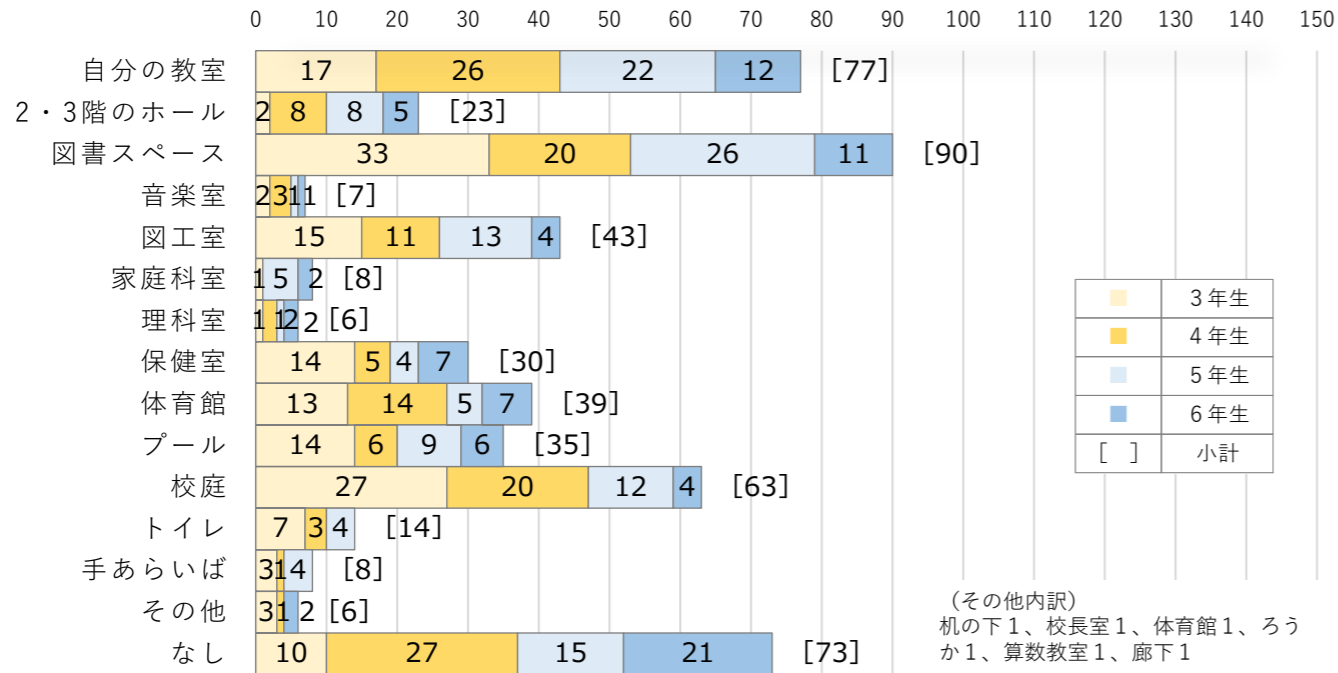
1 回答者の属性

3年生： 54名（回答率：89%）
 4年生： 49名（回答率：86%）
 5年生： 43名（回答率：81%）
 6年生： 28名（回答率：62%）
 計： 174名（回答率：81%）



2 現在の施設環境

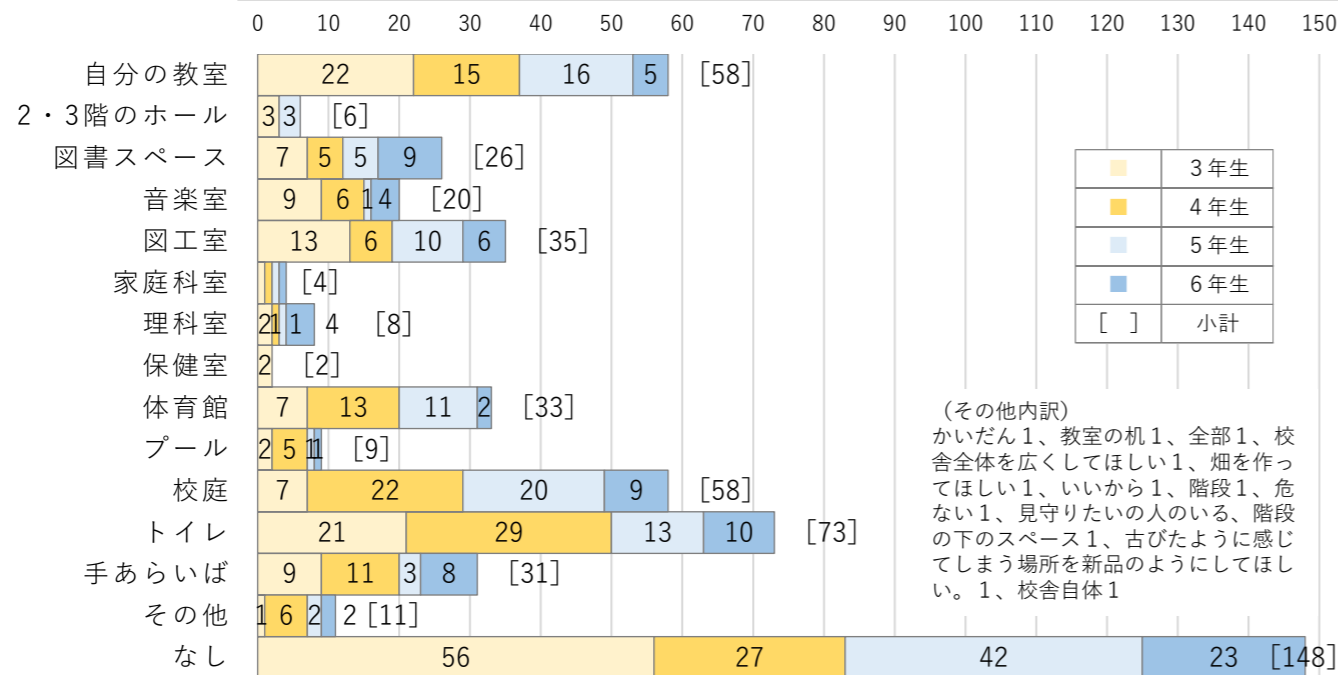
Q：現在の和泉小学校について、使いやすい場所を3つまで選択。



*中・高学年全体では、図書スペース、自分の教室、校庭の順に多い。
 *自分の教室、校庭、図工室、体育館は、設問3の「使いにくい場所」でも回答が多く、児童それぞれにより、使いやすい・使いにくい場所の意見が分かれています。
 ※回答「なし」の内訳には、全て使いやすい7回答、全て使いにくい3回答も含まれている。（別紙参照）

3 現在の施設環境

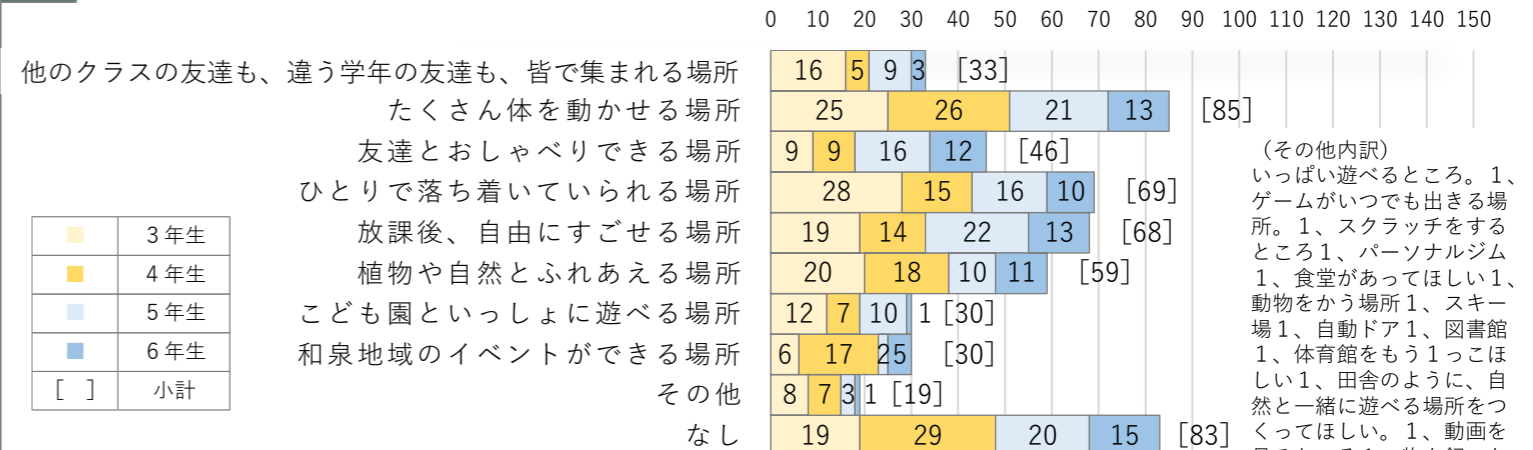
Q：現在の和泉小学校について、使いにくい・もっとよくしてほしい場所を3つまで選択。



*中・高学年全体では、トイレ、自分の教室、校庭の順に多い。
 *自分の教室、校庭、図工室、体育館は、設問2の「使いやすい場所」でも回答が多く、児童それぞれにより、使いやすい・使いにくい場所の意見が分かれています。
 ※回答「なし」の内訳には、全て使いやすい・使いにくい場所はない等31回答も含まれている。（別紙参照）

4 新しくする施設環境

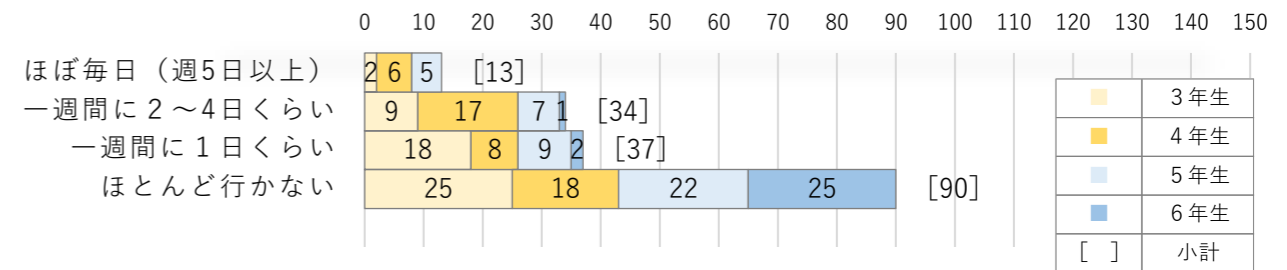
Q：校舎を新しくした場合、「あったらいいな」と思う場所を3つまで選択。



*中・高学年全体では、4つの項目がほぼ同数。
 *高学年は放課後、自由にすごせる場所の割合が多い。
 *中学年はたくさん体を動かせる場所、ひとりで落ち着いていられる場所、和泉地域のイベントができる場所の割合が多い。
 ※回答「なし」の内訳には、満足しているから等5回答も含まれている。（別紙参照）

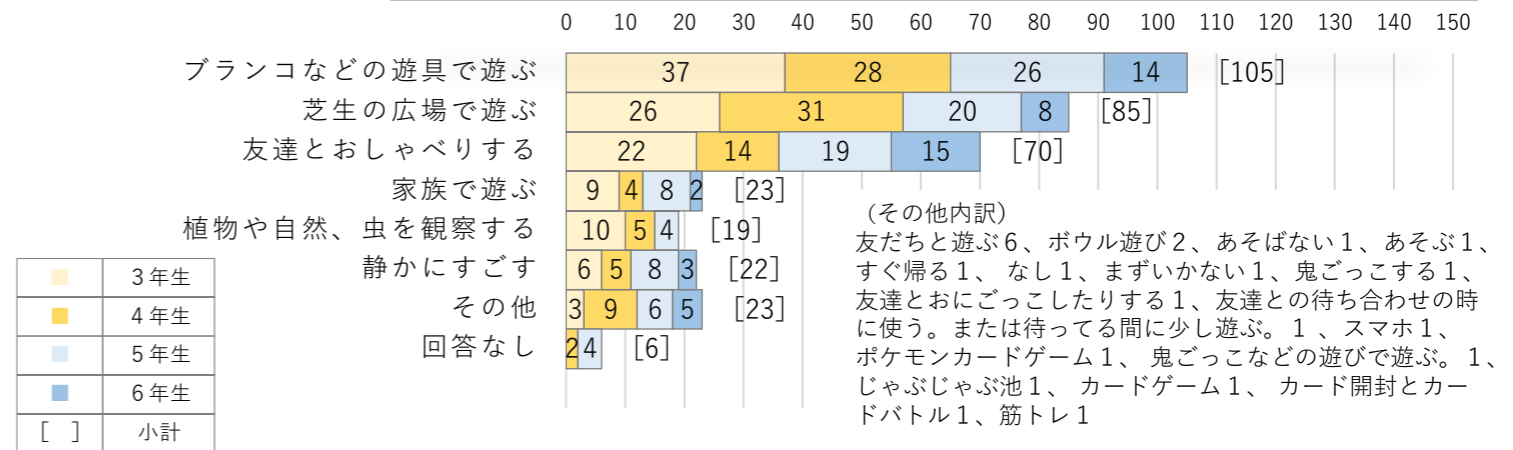
5 隣接する和泉公園

5-1（利用頻度）
 Q：1週間と和泉公園に遊びに行く頻度を、学校が休みの日もいれて選択



*総回答数174のうちほとんど行かないが90名で半数を占める。6年生はほとんど行かないが回答数の9割。
 *行く頻度は中学年の方が高学年に比べ高い。

5-2（利用目的）
 Q：和泉公園で何をしているかを選択肢の中から該当するもの全てを選択。



*中学年はブランコなどの遊具で遊ぶ、芝生の広場で遊ぶ、植物や自然、虫を観察するの割合多く、高学年は友だちとおしゃべりする、家族で遊ぶ、静かに過ごす、その他の割合が多い。
 *総回答数は353、7つ回答は1名、6つ回答は3名、5つ回答6名、4つ回答12名、3つ回答29名、2つ回答40名、1つ回答83名で、1つ回答の児童が半数以上を占める。（別紙参照）

アンケート概要

対象：令和5年1月1日時点で在学している児童（3・4・5・6年生216名）
 時期：令和5年1月16日（月）～1月27日（金）
 形式：WEB方式 学校配布のタブレットを使用し児童本人が回答

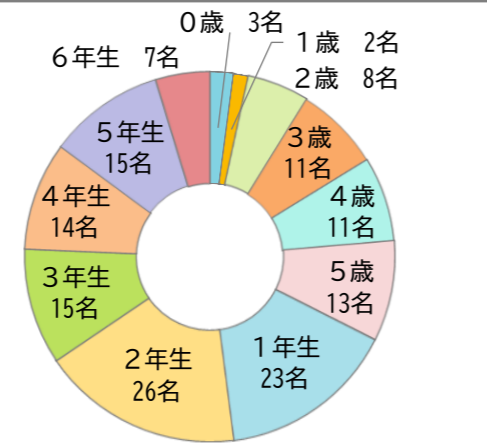
アンケート委託先

教育環境研究所

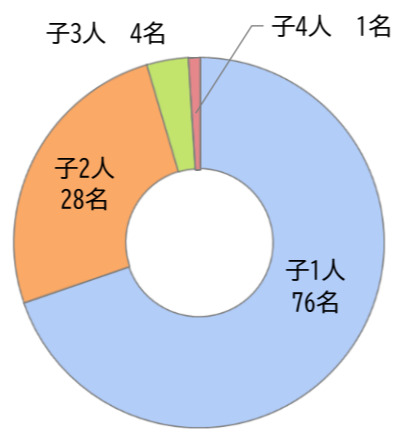
1 回答者の属性

配布総数
こども園保護者 134名
小学校保護者 356名
に対し、

いずみこども園のみに通う
お子さんがいる保護者： 27名 ①
和泉小学校のみに通う
お子さんがいる保護者： 67名 ②
いずみこども園・和泉小学校両方に通う
お子さんがいる保護者： 15名 ③
計：109名 (①+②+③)
より回答があった。
*回答は一家庭につき1回の回答



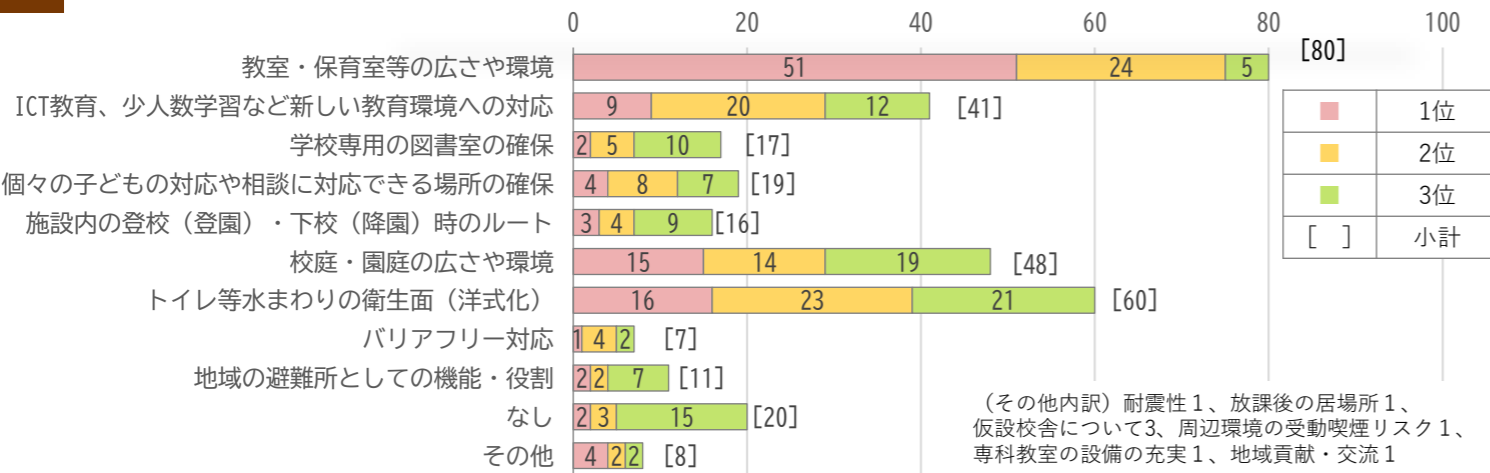
幼齢・学年は2年生保護者が最も多く、次に1年生が続き、3・4・5年生がほぼ同数だった。



兄弟姉妹構成は1人が最も多く、平均は1.36人だった。

2 現在の施設環境

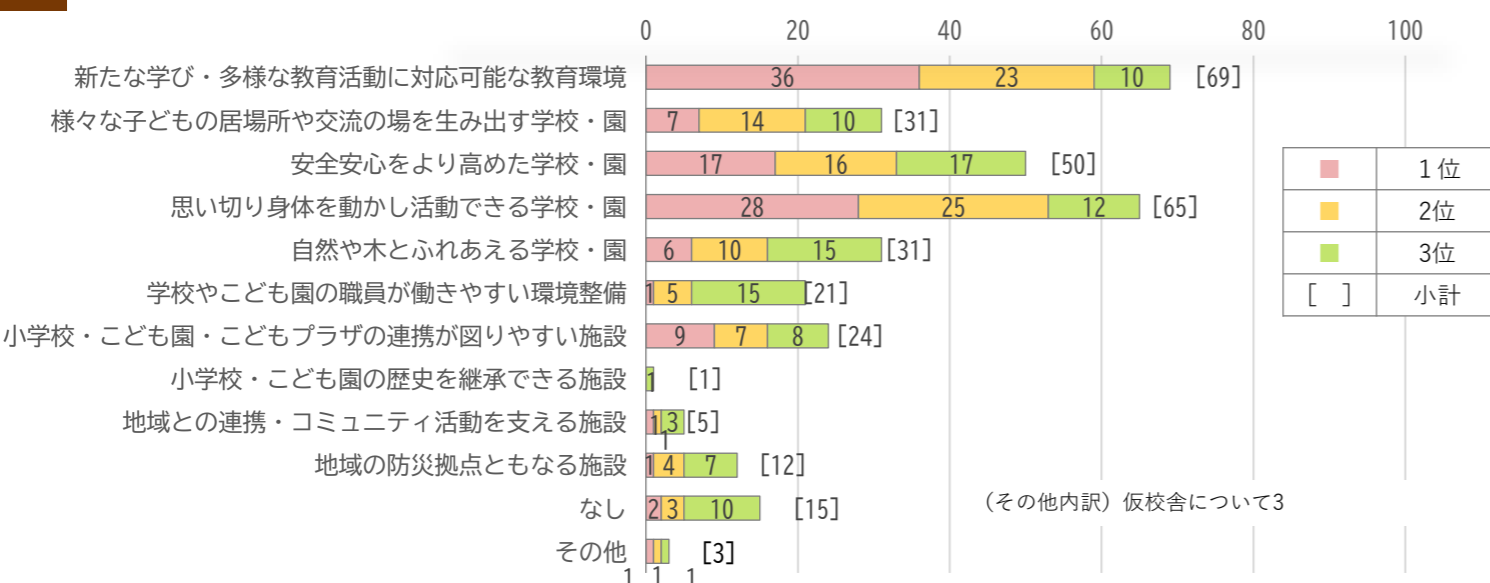
Q：現在の和泉小学校・いずみこども園の施設環境について施設上の課題を3つまで選択。



*「教室・保育室等の広さや環境」が1番目に多く、1位の選択も多い。もっとも関心度が高いといえる。次に「トイレ等の水まわりの衛生面」、「校庭・園庭」、「ICT教育～」が続く。

3 新しい施設環境

Q：これからの学校・教育施設整備の観点で関心の高い項目を3つまで選択。



*「新たな学び・多様な教育活動に対応可能な教育環境」が1番多く、1位の選択も多いので最も関心が高いといえる。また「思い切り身体を動かし活動できる学校・園」も同様に関心が高い。続いて「安全安心」の関心も高い。

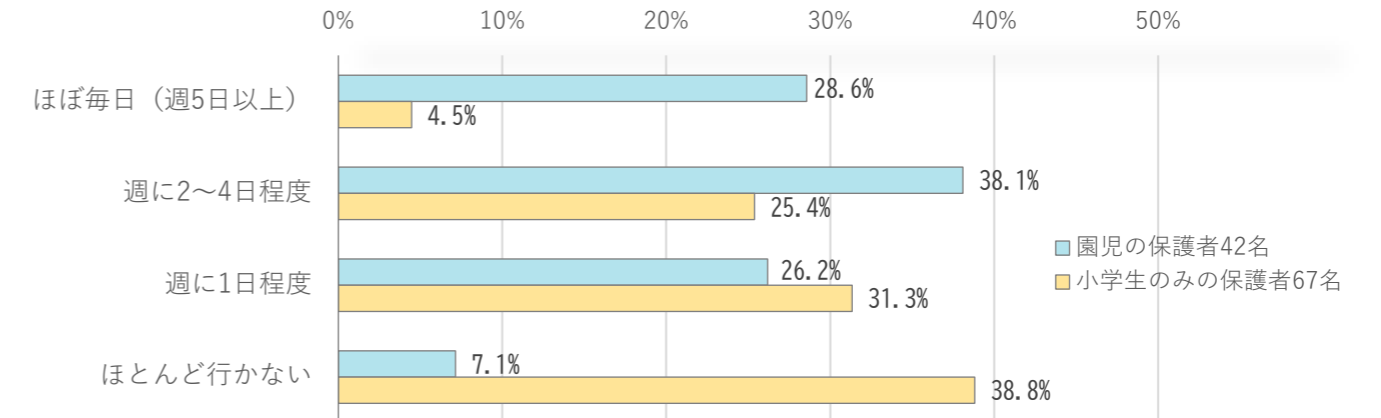
4 新しい施設環境

Q：本事業に期待することや大事にしたいこと(自由記述)

- *全体を通して、安全・安心に関すること、より広い施設規模、建設中の教育環境などへの配慮、子ども達や教職員のことを考えた施設づくりに関して多くの意見が挙がった。
- *安全・安心については、不審者対策やプール等の地域開放時の安全確保について要望が挙がっている。
- *施設規模については、児童・園児数が増加していることに対応できる教室などの広さの確保、子どもたちが伸び伸びと活動できる施設環境の確保について要望が挙がっている。
- *建設中の教育環境については、子どもたちへの影響が少なく通いやすい場所を望む声が多く挙げられた。
- *子ども達や教職員のことを考えた施設としては、子どもが通って楽しいと感じる施設や自然に触れられる環境、教職員や関連施設のスタッフが快適に働ける環境が大切とする意見が挙がっている。
- *そのほか、清潔に使えるといった衛生面の配慮、現在の子育て機能の拡充や小学校の歴史・伝統文化の継承に関する意見、保護者や地域の活動場所を求める意見、多様性に対する施設面の配慮、長寿命な施設を求める意見などが挙がった。

5 隣接する和泉公園

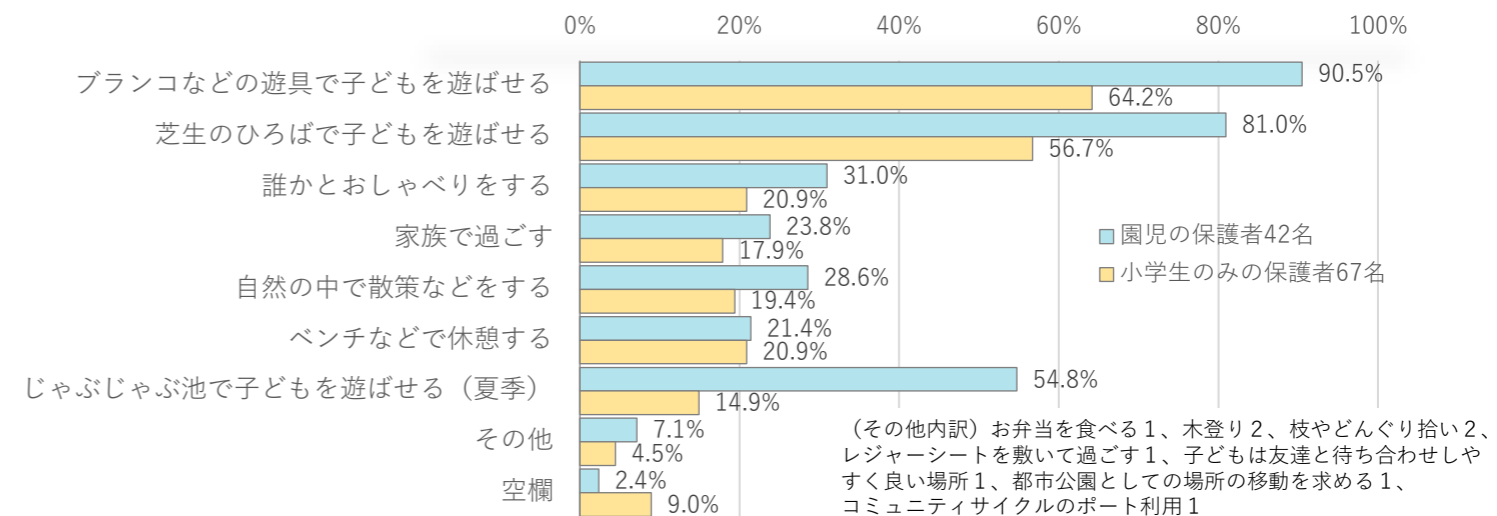
5-1 (利用頻度)
Q：和泉公園の利用頻度(平日と休日含む)



*園児の保護者(①+③)は利用頻度が高い。公園を2日以上利用する割合が6割を超える。
*小学生のみの保護者(②)は園児の保護者と比較して利用頻度が低く、ほとんど行かないと回答した保護者が4割弱いる。

5-2 (利用目的)

Q：和泉公園で何をしているかを選択肢の中から該当するもの全てを選択。



*園児の保護者(①+③)も小学生のみの保護者(②)も同様に「ブランコなどの遊具」「芝生の広場」で遊ぶ割合が高い。
*園児の保護者(①+③)はじゃぶじゃぶ池の利用頻度が高い。

アンケート概要

対象：令和5年2月1日時点で在学・在園している小学校・こども園の保護者
時期：令和5年2月1日(水)～2月15日(水)
形式：WEB方式 ※一家庭につき1回の回答

アンケート委託先

教育環境研究所

和泉小学校の建て替えに関するアンケート（施設環境） 概要報告

教育委員会資料 2 別添 2-4
令和 6 年 3 月 4 日

■実施概要

対象：令和3年10月1日時点で在職している和泉小学校全教職員（一般職員等）26名
時期：令和3年11月1日～11月15日
回答者数：26名（回答率100%）

■回答結果

□設問1. 現状把握：校務分掌の観点でとらえる施設環境の課題（自由記述）

- ・特別教室の配置に教育的意図がない
- ・教室が狭い（25人以上の人数に対応していない。横が長く縦・奥行きが短い）
- ・ステップ教室がほかの教室から離れている
- ・水道の数が少ないため、給食準備などの際に密集してしまう。
- ・非常時の環境想定（避難経路・階、廊下の読書スペース、教室の扉数位置、不審者への対応ほか）が必要
- ・体育用具の置き場所が足りない。
- ・保健室と校庭の階が異なっている。
- ・ケガ人の搬送への配慮（エレベーターの大きさほか）がない。
- ・保健室の大きさが不足している。（健康診断時の利用への配慮）
- ・衛生面への配慮（必要諸室の確保、給食用のエレベータの設置など）が十分でない。

□設問2. 現状把握：現在の施設上の課題として、学校現場において重要度が高いもの（選択回答と理由）

選択肢	回答数	回答理由（現場の具体的課題を抽出）
① ICT教育、少人数学習など新しい教育環境への対応	7	・ICT等は今後も続けて教育環境についてはアップデートし続けなければならない ・フロアに9学級あるため、聴覚過敏な児童が落ち着いて作業し話せるような部屋がない
② 学校専用の図書室の確保	10	・図書コーナーは身近に本を感じることができるが、図書室で静かに過ごすため学校専用の図書室があるとよい。
③ 個々の子どもの対応や相談に対応できる場所の確保	17	・合理的な配慮を行うためにも、小さい個室のようなスペースが複数必要。 ・教室内や校内どこにも児童が心を落ち着けるスペースがない ・空き教室、相談室がなく個々の話を聞く場所、面談を行う場所がない ・個別対応時にプライバシーが守られない可能性がある
④ 教職員の働く環境	8	・教員、支援など学校に関わる人が増えていく中で、座席や十分な作業スペース、ロッカー等がない状況である。 ・更衣室が手狭だと思う ・教員が会議を行う場所がない
⑤ 校庭の広さ	14	・児童数増加により校庭での衝突（頭部の危険な激突等）がある。 ・千代田区の児童は思いっきり体を動かすスペースが特に必要である ・児童数が増える想定であるならば、校庭の広さを大きくすることは必要である ・校庭が狭くて走りにくそう ・できうる限り広い校庭とたくさんのおもちゃや鉄棒があるとよい。
⑥ トイレ等水まわりの衛生面（洋式化）	10	・トイレの蛍光灯が中央にしかないため、個室が暗く入れない児童がいる ・衛生面、安全面の保障は最低限だと思う。 ・トイレが暗くて寒い。他校に比べて古く、冷たい感じがする。 ・現在トイレ清掃で水を流すと下の階に漏水する。
⑦ バリアフリー対応（エレベータの設置箇所など）	4	・車いすで登校した児童がいたが、登校の際にプラザのエレベーターを使用しなければならない。 ・バリアフリー対応トイレがない。
⑧ 地域の避難所としての機能・役割	1	・備蓄倉庫が地下にあるのは、非常に危険。
⑨ その他	2	・アドレスフリーな学習環境、アフォーダンス理論を取り入れた学習環境の導入を検討したい。児童の学習環境を捉え直す、良い機会 ・校庭、教室、職員室等、どこもスペースが狭い。

□設問3. 計画施設：新しい和泉小学校をつくる際の観点として関心の高いもの（選択回答と理由）

選択肢	回答数	回答理由のまとめ
① 新たな学びに対応可能な教育環境	5	協働・対話の場として児童のミーティングルームや教科横断授業のスペースや適切なネット環境、使いやすい施設を望む意見があった。
② 様々な居場所や交流の場を生み出す学校	14	個のスペースを望む意見が多い。子どもを取り巻く環境変化を見据え、生活面（関連）と学習面（個別指導、小集団指導）の両側面で、校内で適正な場所への要望があった。同時に学年単位、異学年交流、地域交流等の活動を行うための空間への意見も多い。
③ 安全安心をより高めた学校	13	立地条件と複合施設の観点から防犯・防災対応や、コロナ禍を経た防疫、食の安全、児童の心理的側面など幅広い視点での安心・安全の意見が集まった。
④ 思い切り身体を動かし活動できる学校	14	児童数に見合った広さの確保、更に雨天時の遊び場、緑ある校庭、素足で遊べる環境など、体育学習に限らず日常において子どもが身体を動かせる環境を求めている。学区で子どもが駆けまわって遊べる場所は学校のみとの認識が高く、学校施設への期待が大きい。
⑤ 自然や木とふれあえる学校	8	④同様に、学区特性からの意見が多い。自然観察（学習面）だけでなく、癒しといった自然とのふれあいによる心身の成長も期待されている。
⑥ 教職員が働きやすい環境整備	7	教職員数増に見合った広さの職員室ほか管理諸室をを求める意見が多い。更に、作業毎のスペースや収納、休憩といった機能面の充実を要望が見られる。
⑦ 小学校・こども園・こどもプラザの連携が図りやすい施設	0	※回答は無かったが、②で意見があり、こども園とは、交流と住み分けの視点で計画することが求められている。
⑧ 学校の歴史を継承できる施設	0	※回答はなかったが、地域との関係性を学区の特性としてとらえている意見が他回答に見られた。
⑨ 地域との連携・コミュニティ活動を支える施設	1	学校以外の方たちと協働し活動することのできる場所の確保が難しくなっている状況が見受けられる。
⑩ 地域の防災拠点ともなる施設	4	防災機能の充実が保護者へ心理的安心感を与えるといった意見や、施設の開放性を求める意見など、様々な視点で地域や防災をとらえた意見が見られた。
⑪ その他	1	姿勢を自由に選択出来たり、対話活動をうながしたりする校具や環境を、アフォーダンス理論に基づいて導入する。

□設問4. 計画施設：各観点において充実させたいスペースや設備（自由回答）設問1～3既出の意見は省略

1. 個別最適な学びの実践

- ・普通教室の充実と配慮：教室内に余裕を持たせ、支援員のスペースをとる。刺激に弱い児童が席の向きを変えられる工夫。
- ・音環境：音など周りから刺激が少ない環境
- ・校具の充実：可動式パーティション、豊富なコンセント。

2. 協働的学びの実践

- ・場所の確保：体育館や校庭だけでは手狭なため協働的学びの活動として現在の白鳥ホールのようなプレイルーム欲しい。
- ・普通教室の充実：狭くない教室。教室を広げて使えるようなスペース。タブレットを広々と活用できる教室。
- ・校具の充実：対話がしやすい円形の机やホワイトボード。各教室内の壁面、廊下や共同スペース等の壁面をホワイトボードや黒板のようにし、いつでもどこでも、児童が自由闊達に対話を行えるような環境。

3. ICTを活用した学習や校務

- ・学習面（場所等）：体育館でのICT機器活用、コンセントの多い教室、広い教室。タブレット充電室。
- ・学習面（校具等）：各学級や共有スペース等に情報の発信受信のためのモニターがあると常に情報を共有できる。ホワイトボード。タブレット充電庫。各教室にカラーコピー機。
- ・校務面：ICT機器が使える会議室。職員室に大型モニターを設置する。勤怠管理のICT化。

4. 自由意見

- ・子ども第一：子どもが主体的に動け、のびのびと生活できること。一人一人の子どもたちが愛し、自分たちの手で創っていきたくするような学校を目指したい。
- ・地域連携、複合施設：新しい環境やシステムの導入と共に、今まで大事にしてきた他学年との交流等、子どもも大人も人と人のつながりも大事にしていきたい。地域のシンボルになるような安全で近代的な建物。和泉公園と繋がっている開放的な施設。地域と連携しながら子どもが成長できるような学校。
- ・具体的施設環境：男子トイレも個室にすると良いと思う。天気にかかわらず遊べる屋上ドーム。木を用いた学校。見通しのある校舎。環境に配慮した学校。

いずみこども園の建て替えに関するアンケート（施設環境） 概要報告

■実施概要

対象：令和3年11月1日時点で在職しているいずみこども園全教職員（一般職員等）約40名
 時期：令和3年11月8日～11月22日
 回答者数：33名（回答率約82%）

■回答結果

□設問1. 現状把握：校務分掌の観点でとらえる施設環境の課題（自由記述）

- ・設問2と重複する内容は設問2に集約する。（※印で示す）
- ・調理室内の汚染区域と非汚染区域がきちんと分けられていない。調理室内の設備が古いため、故障している機器が多い。
- ・調乳室が狭い（1.5畳程度）が厨房が狭いため、看護学総論通り独立したキッチンでクーラー・机・椅子完備して欲しい。
- ・物理的に職員室が狭く、専門職の机配置がない。
- ・支援グッズを用途別に保管できる場所の確保（戸棚）
- ・支援コーナー（他児のしげきから遮断できて落ち着ける場所）が保育室内にあると支援しやすい。

□設問2. 現状把握：現在の施設上の課題として、こども園現場において重要度が高いもの（選択回答と理由）

選択肢	回答数	回答理由（現場の具体的課題を抽出）
① 保育室等の広さや環境	24	※園全体で使える保育室が少ない。子どもの行動制限をしてしまう状況になっている。 ・乳児は狭いため部屋を分けて少人数で活動することが困難。 ・保育室の広さは広ければ良いというわけでもなく、生活と遊びの場が分けられるスペースがあるかや他クラスとの動線等使用していく中で見つかるものも多いと思います。 ※短時間・長時間の保育室を共有しているため、長時間で使用する物の置き場が無い。 ・ドアや壁のアルミや鉄の硬い素材が、子どもたちの環境に適していない。 ※保育室に季節のものを飾れるような白いかべがあると良い。
② 登園・降園時の受渡し	4	・登園、降園時の玄関等の広が見通しが悪く、充分でないこと。 ・園庭から受け渡しが難しく、遠足などの行事の際、出入口が混雑してしまう。
③ 個々の子どもの対応や相談に対応できる場所の確保	12	※保護者のプライバシーを守りながら面談・相談できるスペースがない。 ・複数学年の面談があると今は感染症対策もあり場所の取り合いになってしまう。 ・保護者が気軽に相談できる場所で話し合いよりよい保育を行えるようにする。 ・感染症対策で他の園児の出入りなく過ごせる場の確保。現在は職員室で対応。
④ 職員の働く環境	19	・職員数に対して、事務作業、会議、休憩等の場が足りず、兼用している。机やロッカーの数も不足している。場所の確保から始めるため作業効率が悪い。 ・個人情報扱ったり、話し合ったりするには場所が少なく狭い。 ・荷物置き場(保育で使う素材や行事に使う作品など)があるとよい。保管整理しやすい。 ・相談(面談)や子育て支援専門の部屋がなく、保育室や7階の会議室を使用している。
⑤ 園庭の広さ	7	・3、40人程しか出られないので隣の公園を利用するが、近隣の園も利用するので密になる。 ・雨天時に遊べる場がない。児童館のホールは小学生も利用するので時間制限有り。 ・校庭を使わせてもらえることもあるが、年齢に合った動きのことを考えて、園庭としての場所をしっかり確保してほしい。 ・狭いため、砂場の活用がきまってしまう。他児を気にかけて小スペースでしか遊べないのは子どもの遊びたい意欲を止めてしまうため望ましくない。 ・小学校の体育の授業中はボールが飛んできたり、声が聞こえたりと、集中し遊べない。小学校も遠慮しながら細心の注意が必要。
⑥ トイレ等水まわりの衛生面	25	・質量の不足で、子どもたちの発達に合った指導がしにくい。臭い問題もあり、この園の子は、まずトイレに行くことを嫌がっている。 ・乳児はトイレトレーニングやオムツの子が重なると大変である。 ・幼児はトイレの中で子供同士が入れ替わること、動線が重なり手洗いも使いづらい。 ・安心してトイレが利用できるように扉の開閉が安全で明るいトイレを望む。 ・トイレは汚れた際、床に水を流せるようにしたい。 ※手洗い場や照明などセンサー等だと衛生的にも良いのかと思います。
⑦ バリアフリー対応	1	・意見は無いが、施設全体の課題として部屋や通路の狭さや不便さが挙げられている。
⑧ 地域の避難所としての機能・役割	1	・建物として2階部分が校庭のため2階に上がるときの通路や階段が狭い。
⑨ その他	2	・玄関の狭さ：狭く密になりがち。玄関前が階段で園児が集まるためのスペースがない。

□設問3. 計画施設：新しいいずみこども園をつくる際の観点として関心の高いもの（選択回答と理由）

選択肢	回答数	回答理由のまとめ
① 多様な教育活動・保育に対応可能な施設	8	こども園という保育園・幼稚園の機能をより推進するため、また個々の育ちに合わせた対応や指導ができる空間の確保をし、「こんなことを経験させてあげたい」と思った時に実現できる環境を目指す。
② 様々な子どもの遊び場や交流の場を生み出すこども園	7	遊びの幅やコミュニケーション能力を養うために大切であるが、同時に年齢や子どもの状況にあわせた配慮も欲しい。地域で育つ子供を大切に和泉地区という立地からも、異年齢や未就園、在籍の有無にかかわらず、みんなが集まる場にしたい。また、自然に触れる経験の場も用意したい。
③ 安全安心を確保しつつ自由に動き回れる環境	13	遊び運動を通して子どもの主体性を育む環境を用意したい。そのために、保育室の広さ、雨天時の遊び場、囲われた遊び場、などの場の確保と同時に、建具や照明、換気などへの配慮まで幅広い意見がある。
④ 思い切り身体を動かし活動できる施設	10	都心の園として限界はあるが、施設としてどの年齢の子どもも思い切り身体を動かせる工夫があると良い。小学校との住み分け、雨天時の遊び場を望む意見が多い。
⑤ 自然や木とふれあえるこども園	22	五感を学ぶ幼児期において、自然と触れ合う直接体験を保障したい。隣接する和泉公園を利用したい意見、園独自で意図的に自然に触れる機会や草花と、幅広い意見が集まった。
⑥ 職員が働きやすい環境整備	13	就業人数に見合った就業環境（事務作業、打合せ、会議、収納、休憩など）の確保とともに、子ども園としての環境（写真や物を広げた作業など）への配慮などの意見があった。
⑦ 小学校・こども園・こどもプラザの連携が図りやすい施設	5	園児が小学生から刺激を受けることができる環境やプラザのプール、会議室、図書室など併設の良さを活かしたいという意見が見られた。
⑧ こども園や小学校の歴史を継承できる施設	1	※回答はなかったが、地域との関係性を園の特性としてとらえている意見が他回答に見られた。
⑨ 地域との連携・コミュニティ活動を支える施設	4	長く和泉地域に支えられてきたので、子どもにかかわる様々な人、地域に暮らす人とのつながりを大切にしたい。
⑩ 地域の防災拠点ともなる施設	2	地域の方々にとっても安心安全と感じられる施設だと良い。
⑪ その他	3	調理室内の設備の充実、他

□設問4. 計画施設：各観点において充実させたいスペースや設備（自由回答）設問1～3既出の意見は省略

- 1. 幼児期（3～5歳児）において、園児自身の興味や関心に応じて様々な体験ができる教育環境**
 - ・園庭：ピオトープなど自然に触れられる、遊具
 - ・園庭以外の遊び場：全天候型の屋上校（園）庭、室内多目的スペース
 - ・交流スペース：3学年の交流、小学生との交流
 - ・絵本やおはなしコーナー、ままごとスペース、工作スペース、制作物の展示スペース、壁面装飾
- 2. 乳児期（0～2歳児）において、健康で豊かな成長を促す保育環境**
 - ・保育室以外の場：屋根つきの園庭、戸外と安全に行き来できる環境（半屋外スペース）、室内砂場遊び、広いテラス、乳幼児室専用の遊戯室やプレイルーム、全身を動かして、ハイハイしたり、歩いたり、よじのぼったりできる場所
 - ・0・1才児トイレ：保育室を通らずにいける場所がよい
- 3. ICT設備の導入を進めた場合の活用方法**
 - ・映写：絵本をモニター等に写し出し遠くからでも見ると子どもの集中力も保てると思う。壁にモニター等をつけ、子どもの描画や植物の生長が分かる写真・動画を映したり、ダンス・音楽を取り入れる。
 - ・体験：直接体験だけで、補えない部分の補完する。
 - ・事務：登降園の時間チェック、職員間の情報の共有、保護者⇄園⇄職員⇄関係機関等の情報の共有、事務の省力化、子どもの活動記録を即座に記録できるので、一人ひとりの成長の様子を今よりも鮮明に記録できるのではないかと。
 - ・保護者との関係：連絡帳に利用すると動画等で日中の保育の様子を伝えられ内容が豊かになる。
 - ・交流：リモート環境による保護者会や面談の実施、他園との交流。
- 4. 自由意見**
 - ・子ども、保護者、地域の人、職員など関わる全ての人のことを考えられた快適な環境を整えて欲しい。
 - ・現在の小学生の姿が見えて刺激を受けやすいよさは残しつつ、園児に不足しがちな自然との関わり、体を動かす遊びが豊かに行える空間や設備があるとよいと思う。
 - ・となりが自然豊かな公園となっているので、それを活かした施設にして欲しい。（窓から子ども達が見る景色等、自然の移りゆく季節の変化）